

# 農業（マンゴー栽培）分野③

## 事業計画の内容



農業法人設立が奨励され、規制が従来ほど厳しくなくなってきたため、マンゴー栽培を栽培面積2,000㎡で行い、将来的には観光農園も視野に入れて事業の進出を検討している。

## 事業の課題及びアドバイザー

### ○ 現在の事業の分析について

ハードが先行し、ソフトが確立していないため全体の方向性が確立していない。このため、現在のハウスに他作物を導入しての補完の検討、主たる技術者の育成、法人協会等への参加による情報収集について助言する。

### ○ オリーブ栽培の可能性について

気候はオリーブ栽培に適しているが、消費量の増加しているオリーブオイルは、輸入オリーブが中心である。オイル用のオリーブは市場性が低いため、他の付加価値を付けられるか（ドレッシング、ピクルス等の加工等）が課題である。

### ○ マンゴーの販路開拓についての方法について

販路開拓に当たって、外部内部の環境の検討、標的顧客の絞り込み、販促活動の方法について計画等を行った。

良い商品をどれだけ作ることが可能か、また、沖縄県産や宮崎県産のブランドに対抗できるかがポイントとなる。また、他県産や地元先行組との差別化のため、品質の良い物を現在の半額程度で販売することを目標にする。そのためには、仲卸を通さず直販ルートの開拓を行う必要がある。

### ○ 将来的には観光農園も視野に入れている

観光農園は、マンゴー栽培が軌道に乗った後に検討する必要がある。

まず、観光農園の開業にあたっては、方向付け、イメージを明確にしたうえで全体構想を描き、施設整備計画・年度計画・資金計画を策定し、手戻りや無駄のないように取組む必要がある。また、観光農業にも体験型（もぎ取り園、加工体験）、参加型、オーナー型、長期滞在型など多様な形があるため、県内の事例について説明する。さらに、近隣の海水浴場、みかん等との調和も必要になってくるため、地元の市町村とも相談しながら計画を策定することを勧める。

## その後の取り組み状況

試験的に栽培を行いながら、販売に関する営業活動及びパッケージの検討などを行っている。また、農業法人、認定農業者の認定を受けたところである。

### 会社名及び連絡先

三洲建設 株式会社  
〒869-3205 熊本県宇土郡三角町波多 886-9  
代表取締役 吉田孝夫  
TEL 0964-53-1373  
FAX 0964-53-1542